

レビュー項目 (事業名)	ふるさと兵庫“すごいすと”情報発信事業				部(局)	県民生活部	
					所管課	県民躍動課	
					担当班	参画協働班	
					連絡先	078-362-3996	
開始年度	平成25年度	終了年度	—	関連計画等	—		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他( )				実施主体等	県	
事業目的	兵庫を元気にしているすごい人物“すごいすと”や、参画と協働のまちづくりを進める地域コミュニティ等、様々な角度から地域を元気にし、ふるさとへの誇りや愛着につながる情報を発信することで、地域活性化及び県民のふるさと意識の醸成を図る。						
事業概要	(1)インターネット情報誌「ふるさと兵庫“すごいすと”」の制作 地域を元気にしている人や、地域コミュニティ団体等に取材を行い、活動のきっかけや思い・今後の展望等を記事にして、すごいすとHPにて公開 (2)ふれあい活動アドバイザー派遣事業 “すごいすと”で取り上げられた方々を「ふれあい活動アドバイザー」として県内の地域づくり活動団体へ紹介・派遣し、県がその経費の一部を補助						
これまでの改善状況	H25:事業開始 H27:「未来のすごいすと(地域づくりに取り組む若者で構成されるグループ)」の制作を開始 R1:「Co+Coすごい(地域づくりに取り組む地域コミュニティグループ)」の制作を開始 R3:未来のすごいすとをCo+Coすごいに統合 R4:これまで蓄積してきたすごいすとの活用を図るため、すごいすとをアドバイザーとして地域づくり団体に派遣し、地域課題の解決に直接アプローチできる仕組みを整備 R5:これまで蓄積してきたすごいすとの活用と活動の輪の拡大を図るため、すごいすとと地域づくり活動に興味を持つ県民との交流会を開催(豊岡、加古川)。すごいすとの周知を図るため、タブロイド紙を発行。						
業務フロー	(1)委託:1年ごとに企画提案コンペを実施し、最も優れた提案をした者に委託 (2)補助:申請(地域づくり活動団体)→受付・審査(県)→交付決定(県)						
事業に要するコスト	区 分		3年度決算額	4年度決算額	5年度当初予算額	6年度当初予算額	
	事業費①		7,350千円	12,371千円	10,971千円	11,056千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	6,998千円	9,195千円	9,200千円	9,200千円	
		補助金・交付金	0千円	600千円	1,350千円	1,250千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	352千円	2,576千円	421千円	606千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(3,675千円)	(6,185千円)	(5,485千円)	(5,528千円)	
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(3,675千円)	(6,185千円)	(5,486千円)	(5,528千円)	
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		7,350千円	12,371千円	10,971千円	11,056千円	
	執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	人件費③(a+b+c)		従事人員 1.0人	従事人員 1.0人	従事人員 1.0人	従事人員 1.0人	
		8,225千円	8,257千円	8,619千円	8,720千円		
職員給与費	a	7,102千円	7,136千円	7,496千円	7,599千円		
賞与引当金繰入額	b	572千円	583千円	572千円	583千円		
退職手当引当金繰入額	c	551千円	538千円	551千円	538千円		
総コスト(①+③)		15,575千円	20,628千円	19,590千円	19,776千円		

	指標名	区 分	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度目標	最終目標【年度】
評	成果指標(アウトカム指標①) 兵庫のゆたかさ指標(設問3:住む地域への関心)	目 標	71.1	71.2	69.1	69.2	前年度を上回る
		実績(見込)	71.2	69.1	69.2	(69.2)	【各年度】
		(単位当たりコスト)	(219千円)	(299千円)	(283千円)	(286千円)	
		達成率(見込)	100.1%	97.1%	100.1%	(100.0%)	
価	成果指標(アウトカム指標②) 兵庫のゆたかさ指標(設問7:住む地域への愛着や誇り)	目 標	66.8	66.8	64.7	63.8	前年度を上回る
		実績(見込)	66.8	64.7	63.8	(63.8)	【各年度】
		(単位当たりコスト)	(233千円)	(319千円)	(307千円)	(310千円)	
		達成率(見込)	100.0%	96.9%	98.6%	(100.0%)	
指	活動指標(アウトプット指標①) すごいすとアクセスユーザー数(月平均)	目 標	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400
		実績(見込)	7,941	6,951	6,236	(5,400)	【各年度】
		(単位当たりコスト)	(2千円)	(3千円)	(3千円)	(4千円)	
		達成率(見込)	147.1%	128.7%	115.5%	(100.0%)	
標	活動指標(アウトプット指標②) ふれあい活動アドバイザー派遣回数	目 標	—	25	25	25	25
		実績(見込)	—	14	16	(25)	【各年度】
		(単位当たりコスト)	—	(1,473千円)	(1,224千円)	(791千円)	
		達成率(見込)	—	56.0%	64.0%	(100.0%)	
終期設定	有 ( )						無
改善基準							
自	評価の視点		評価			目標に対する達成状況(総合的評価)	
	<b>○有効性(評価指標に対する実績)</b> ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など		R3年度には「ひょうご県民アプリ」と連携するなど、多くの人にすごいすとの記事が届くような仕組みを整備し、本HPを定期的に閲覧する人が一定数いる一方で、アクセスユーザー数の大幅な増加にはつながっていない。 アドバイザー派遣についても、制度の周知が不十分であり、想定された補助件数には達していない。			アクセスユーザー数の増加、ひいては住民の地域への意識醸成に向けては、本事業の魅力さをさらに高める必要があり、県広報プロデューサーの伴走支援を受けることで、より魅力的なコンテンツとなるよう工夫・改善を行っている。	
評	<b>○効率性(最小のコストで最大の効果)</b> ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など		毎年コンペを実施し、優れた提案をもつ事業者を選定し、効果的な事業執行を実施している。 イベントの広報時には登壇者にもSNS等での広報を依頼することで、県政になじみのない層への周知を図っている。				
	<b>課題・今後の方向性</b> <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他						
価	説明 ( ) 本事業の効果をより高めるためには、さらに多くの人にアクセスしてもらう必要がある。アクセスユーザー数の増加に向けては、本事業の魅力さをより高める必要があり、引き続き広報専門人材や民間事業者の提案を取り入れながら、HP構成の精査や新たな企画を検討・実施する。 アドバイザー派遣については、より多くの団体の課題解決につながるよう、地域活動を支援する主体と連携し、本補助事業の効果的な周知・広報に取り組む。						
	外 部 委 員 会 意 見 ・アウトカム指標の目標設定が遠いので、この事業で改善することができる指標も設定すべき。Instagramのフォロワー数を増やすことを目標に設定しても良いのではないか。 ・アウトプット指標の「すごいすとアクセスユーザー数」は、アウトカム指標とすべき。 ・すごいすととの任期の設定がないのであれば、設定しても良いのではないか。 ・HPは文字で伝えるだけではなく、すごいすとへの動画のインタビュー(3~5分程度に編集)を載せる等の工夫をすることで、アクセス数を伸ばすことができるのではないか。 ・すごいすとに、若い世代をつなぐ「語り部」としての役割を持っていただいてはどうか。 ・すごいすとから、どのように派生させ、連携できるかの仕組み作りが必要。移住者を増やすことも目的としているのであれば、県外の方向けへのアプローチを行い、広げていくべき。 ・単なる紹介にするのではなく、事業目的に適切なコンテンツの作成や見せ方が必要である。 ・人的ストックをすることは非常に良いが、ストックするだけでなく、どう活用するかが重要である。目標設定は難しいが、すごいすとと地域の方とのプロジェクトや活動数をアウトカム指標とすることが理想である。 ・年に一回、すごいすとへ「あなたの活動がきっかけで、立ち上がったプロジェクトはないか」等のアンケートを実施し、その数を成果指標にする方法を検討してはどうか。 ・すごいすとをカテゴライズできないか(〇〇すごいすと等)。細分化を図ることができれば、派遣する際に良いのではないか。 ・人材バンク的な役割として、県の他事業で必要としている人材を供給できれば良いのではないか。現在のすごいすとの方たちも精査し、分野が偏っていないか等を確認しておくべき。 ・「ふれあい活動アドバイザー」という名称が、すごいすととリンクしていないので、今後名称の変更を検討してはどうか。 ・多様な生き方を子どもたちに提示することが大切だと思うが、すごいすとをロールモデルとして提供するチャンスがあればと感じた。						
<b>改善結果</b>							
・SNSの活用やタブロイド紙の発行に加え、新たにティザー動画やPodcastを制作し、HP以外のコンテンツを充実させることでメディアミックスによる周知に取り組んでいる。 ・令和7年度以降、外部委員会意見に基づき、「すごいすとアクセスユーザー数(月平均)」及び「Instagramのフォロワー数」を成果指標(アウトカム指標)に設定するとともに、新たな成果指標についても検討する。 ・すごいすとと県民との交流会や地域づくり活動団体へのアドバイザー派遣に加え、令和7年度より、新たにすごいとの人材を活用する場として、すごいとのもとで若者に地域活動を体験してもらい、その魅力や価値を体感することで兵庫の未来を担うリーダーを発掘・育成する「地域のネクストリーダー発掘プロジェクト」を実施する。							